

## 内藤辰美教授のご退職を祝して

社会福祉学科 学科長 北 西 憲 二

内藤辰美教授は、本年3月に定年により退職されることになりました。2002年に山形大学教養部教授から本学に移られ、ご専門は地域福祉論、地域組織論で、基礎演習Ⅰ、Ⅱ、3、4年生のゼミとともに、社会学、地域組織論の授業を担当していただきました。

学生にもっとも人気のある先生で、内藤先生らしい人間味あふれるユーモアとともに、博学で鋭い見識の持ち主です。「ねこ」と自称され、時に会議では目をつぶっておられるが、肝心の時にはまなこをしっかりと開き、鋭い本質を突く意見を述べられました。普段優しい眼は、このときには鋭いものになります。

学生には時に優しく、時に厳しく指導され、社会福祉の領域に「コミュニティ」と「市民文化」という社会学的視点を取り入れ、日本女子大の社会福祉学に厚みと魅力をもたらしていただきました。また内藤先生のフィールドワークで養った聞き取り調査の能力やフィールドに無理なく入っていく力、つまりコミュニケーション能力が学生の指導にも発揮され、学生に慕われ、また影響を受けた学生が多いことを実感しています。また学生学寮委員をここ2年間勤めていただき、学生の立場から大学のあり方についても考えていただきました。

内藤先生の主な研究領域は、「地方都市の社会変動と社会移動に関する社会学的研究」でいつも私が感心するのはその行動範囲の広さとネットワークの良さです。北海道小樽市での社会変動と社会移動について実証的な研究に精力的に取り組んでおり、私が北海道の学会から帰る途中の飛行場で内藤先生に偶然お会いしたことがあり、なるほど社会学者というのは、ネットワークがよくなければつとまらないな、と思ったことを覚えています。日本女子大社会福祉学科内に「社会移動研究会」（代表者、内藤教授）を立ち上げ、若手研究者の育成にも当たっていただきました。

若手研究者のみならず、大学院生の研究指導にも熱心に当たられ、そのお人柄と見識に触発された大学院生もたくさんおられました。

ご退職後、さらに広い領域でのご活躍を期待し、まずは大学でのお仕事を終えるに当たって、ここからご苦労さまでした、と申し上げたい。そして今までの日本女子大社会福祉学科における教育、研究活動について社会福祉学科教員、スタッフ一同、学生一同に代わって感謝の念を捧げます。今後の益々のご活躍を祈念しております。

2009年3月